小児科医 求む

被災3県 医師の流出で

東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島3県の小児救急医療を支援しようと、日本小児救急医学会の作業部会が、全国から小児科医の募集を始めた。従来の医師不足に加え、震災後に宮城県の沿岸部で医師数が1割減るなど、医師の流出が相次いでいることが背景にある。

同学会の東日本大震災継続支援ワーキンググループが昨夏以降、3県の小児救急医療の現状を調べたところ、小児科医が24時間365日態勢で呼び出しを強いられるなど、疲弊状態にあることが分かった。募集対象は全国の小児科医で、期間は1週間など短期間でもよい。勤務地も選べ、拠点病院などが受け入れる。

代表の斉藤修・東京都立小児総合医療センター医師は、「地域の小児救急医療を支える医師が倒れては、医療態勢が崩壊してしまう。まずは被災地の現状を知ってもらい、息の長い支援にしたい」としている。

問い合わせは小児医療復興新生事務局HP（http://www.hosokunagaku.jp）。